

梅 檀

はじめまして

新任赴任のご挨拶



はじめまして、平成三十年度四月一日より刃土名小学校に着任することとなりました。校長の宮城尚志です。出身は地元元頭村の与那です。現在は刃土名区の兼久に住居を構えています。

教職に就き二十年余、今回の赴任が刃土名小学校3回目となります。本年度は、校長をはじめとする新たな7名の職員を迎えることになりましたので簡単に紹介させていただきます。

☆ 校長 宮城尚志 (安波小学校より)

☆ 2年担任 玉城 斉子 (喜屋武小学校より)

☆ 3年担任 鎌田 健裕 (中海小学校より)

☆ 6年担任 諸見 秀幸 (大北小学校より)

☆ 教務主任 上地 潤 (教育事務所より)

☆ 養護教諭 上間 洋子 (宜野座中より)

☆ 村雇用支援員 大田 梓 (奥間出身)

詳しくは4月の学級保護者会等で直接先生方からお伺い下さい。

あらためて「一年間よろしくお願ひします。」

教育者としての「私の信念」

尚志

私の信念

- 一、決して目を背けない
教室の事実 家庭の事実 自己の現実
- 一、決して諦めない
愛情を描く 未来を描く 使命を描く
- 一、覚悟を決める
失敗を恐れない 現実に向かう

私の教職経験が十年を過ぎた頃、某小学校での男の子との出会いの中で、男の子との関係を築こうとするが中々うまくいかず正直言って行き詰まりを感じ諦めかけていた私があった。ある日いつものように声をかけるがこれもいつものように目線をチラッと合わせ私の目線から逃げていく仕草を示した。そんな日々の中のある日男の子のぼそっとつぶやいた言葉が私の脳裏を激震させた。それは・・・

「どうせ先生方は あきらめるから。」

男の子は、年度途中からの転入であった、転入前の男の子の経験がすべて凝縮された「どうせ・・・」だったのではないだろうか。

子どもの感性をみくびるな。

子どもは大人以上に大人のことをよく診ている。教科書よりも子どもから学ぶことが多い。謙虚に子どもに向き合え。等

あれから数年、言葉は多少変わったが、私はこの三つの信念を、当時の男の子から学ばせてもらい教育者として今も子どもたちと向き合っている。

入学式

四月十日、十三人の新たな刃土名小学校の仲間達。

入場は六年生のお兄ちゃんやお姉ちゃんに手を引かれ、ちよっと恥ずかしそうに、でも嬉しそうに・・・



入学式「校長式辞」主文(抜粋)

「一人ひとりの幸せ」それぞれの「家族の幸せ」が世界の平和と地球環境の一番大切な要素である。子どもは勝手に育ちません。子どもは大人が育てたように育ちます。アメリカンディアンの教えより

- ☆ 励ましを受けて育った子は自信を持ちます。
- ☆ ほめられる中で育った子はいつも感謝することを知ります。



やったー 素晴らしい

第十四回「小学生の防災探検隊マップコンクール」において本校の現5年生の作品が全国コンクールで『佳作』を受賞しました。しかも、四月当初の1週間は県庁1階のフロアに展示されました。